

5. モニターについて

渡辺 昭 雄 (東洋工業)

1. モニターの多種・多様性

(○印は、付いていることを意味する)

種類		Binary Machine				Decimal Machine			
入出力 運用方法 分業程度	Paper Tape		○		-----		○		-----
	Card	○			-----	○	○		-----
	Typewriter	○	○		-----		○	○	-----
	Line Printer	○	○		-----	○			-----
	Mag. Tape	○	○	○	-----	○	○	○	-----
	Drum/Disk			○	-----	○			-----
	Data channel			○	-----			○	-----
	Timer			○	-----		○	○	-----
Open Shop制	Programmingのみ Open								
	Operationも Pro.も Open								
Closed Shop制	Operator 専任制								
	" 非専任制								
備用	野はなし								

[結論] 計算機の種類、構成、運用方法、分業の程度などを無視して、たった一つの Monitor を 皆におしつけることはできない。

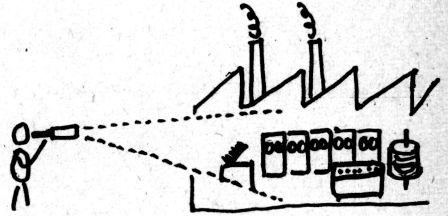
(異世は、既製品のワイシャツでも、23種類のサイズが用意されている。)

2. EDP S の機種、構成の選定基準

[過去]



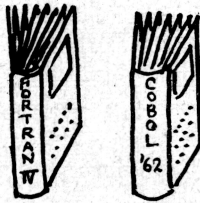
or



対象業務が、これくらいの規模だから、あれでよいたろう。

あそこが、あれくらいのを入れたから、うちもあれにしとけば、何とかなるよ。

[現在]

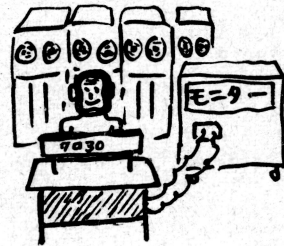


OK!

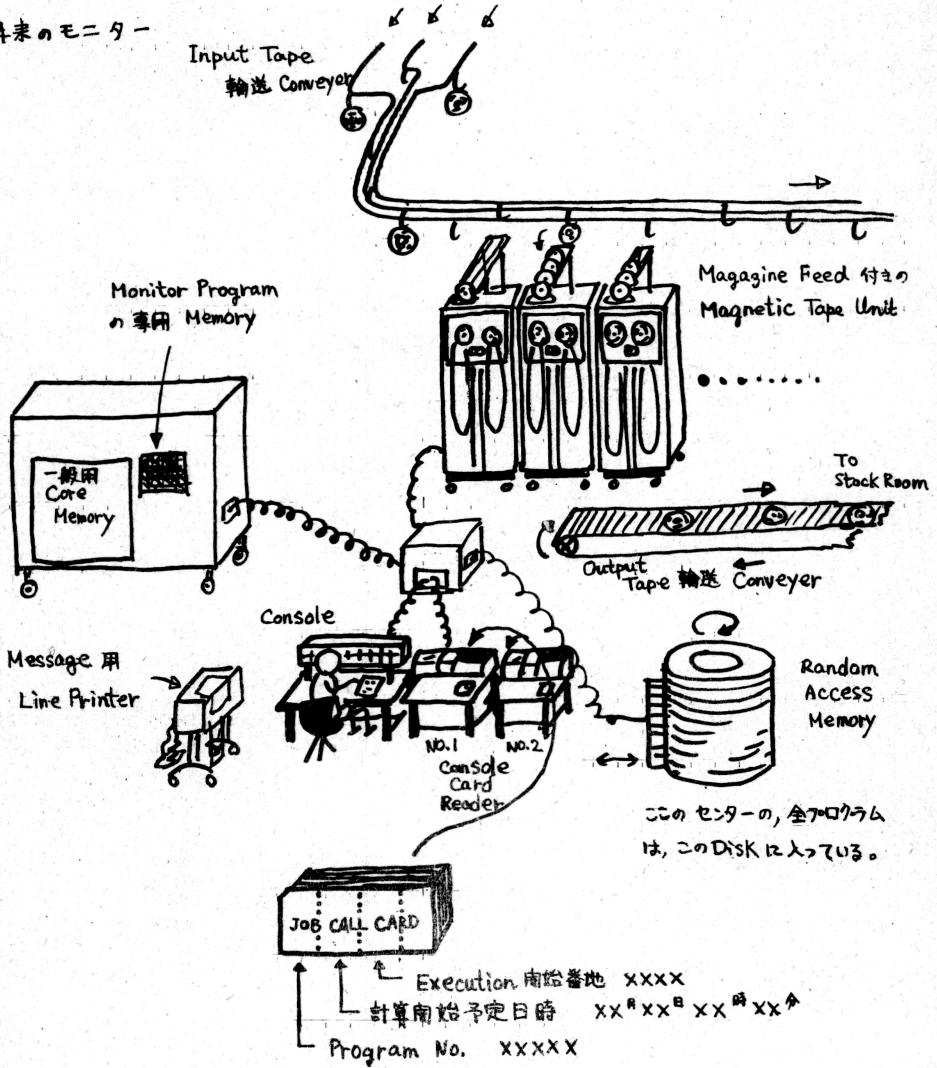
FORTRAN IV と、COBOL 62 が使いやすいから、あの計算機の、あの構成のものにしよう。

[将来]

うちの家風にもあっていて、しかも、オペレーターは、おサルでじゆうぶんという、あのモニターを使うから、計算機はこれにしよう。



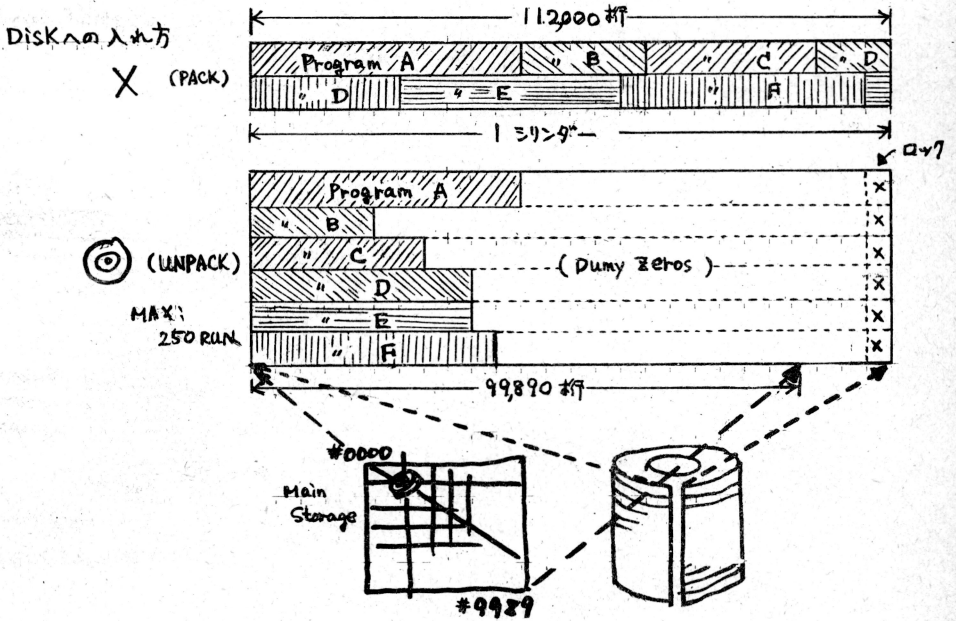
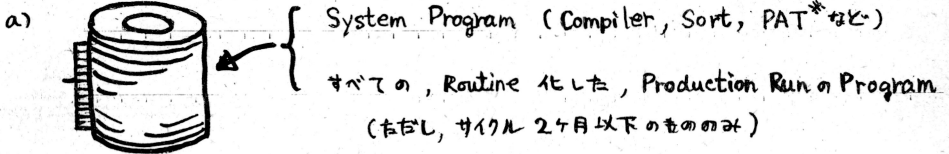
3. 機束のモニター



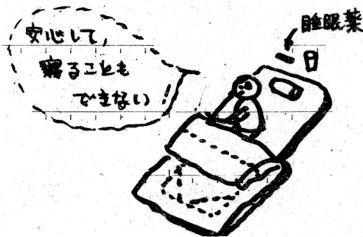
Console Card Reader

- { NO.1 定時刻になれば、計算開始する業務を呼び出す。
- { NO.2 機械が空いたら、いつでも計算開始してよい業務を呼び出す。

4. 東洋工業の7074 モーター



[理由] Planner や Programmer を 不眠症からすくうため。



* PAT Procedures for Automatic Testing (Remote Test のための Program)

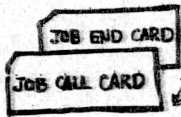
- b) Routine 化した, Production Run の Program (サイクル 2ヶ月以上のもの)
- 一発物 (科学技術計算 など) の Program



Program を Tape から Loading して, ちゃんと Message を Type してから, 計算を はじめさせる。

→ とうい, System Program が, Disk に入れている。

c)



PATCH CARD があれば, この向にさす。

JOB CALL CARD の内容

{ Program No. XXXXX
 cylinder No. ΔΔΔΔ (Disk での格納 Location)
 使用 Tape / Disk (INPUT, OUTPUT 別記, Channel-Unit No.)
 Execution 開始番地 ▽▽▽▽

d)



才日条 200番地から 300番地までの使用は, 終日禁止する。
 (そして, ここに, Monitor Program を入れる)

e)



250本のCylinderには、1つ1つ鍵がかけてある。
 “鍵”は、2000番地に入っている内容である。この鍵を知っている人のみ、そこに新たなProgramを書き込んだり、Patchしたりできる。

f)



Time Recorder (Interval Timer) による作業時刻の記録方法は、当社のSPAC (Standard Programming and Checking, つまり道路交通取締法) に規定されているので、Monitorでは使わない。g)の⑧と⑫は、SPACによって規定されたとおり、Typeされた、Timerの内容である。

g)

操作班の記録
(3ヶ月保存)



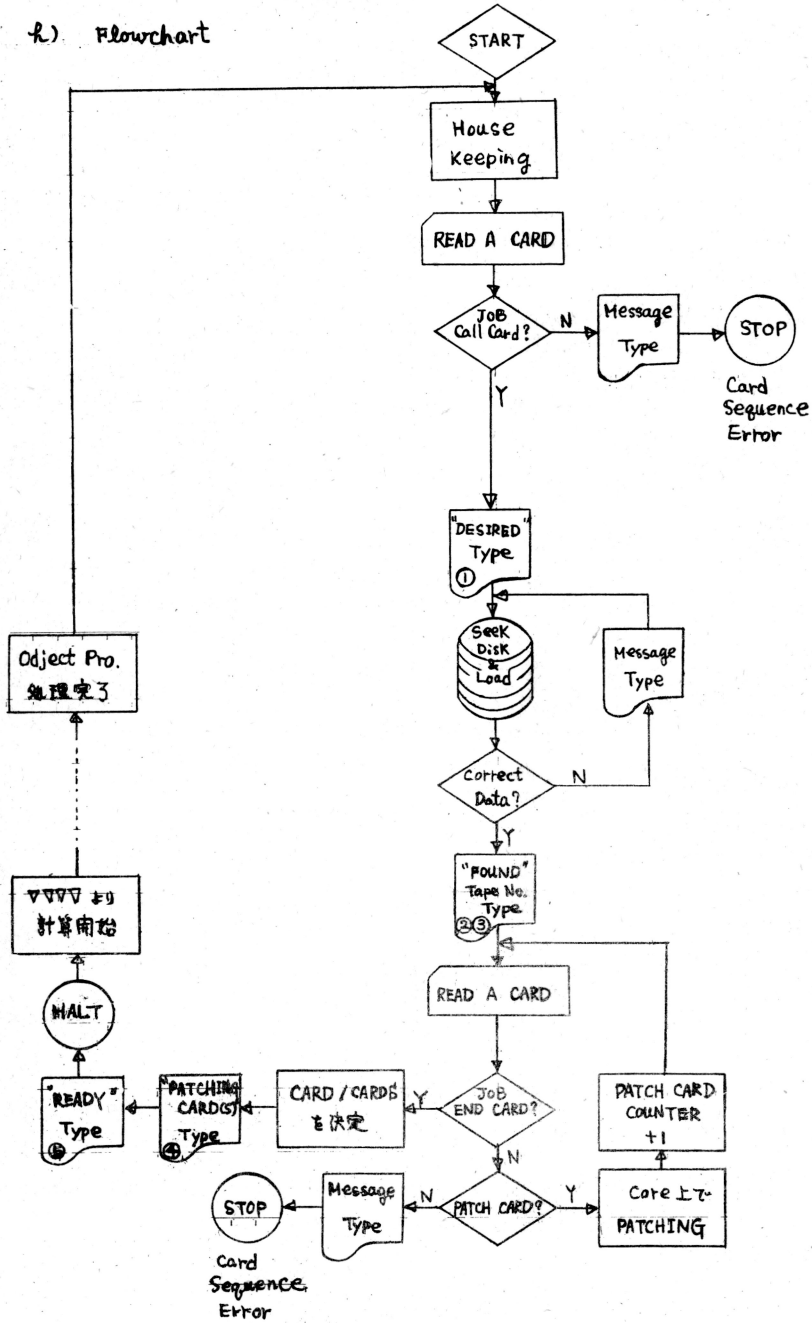
Console
Typewriter

カーボン紙

計算依頼者へ渡す。

↑ コ レ イ ン カ ↓ レ イ ン ↓	↑	PROG 01040 DESIRED	①
		FOUND	②
		IN 11 12	③
		OUT 21 22 23	④
		2-PATCH CARDS	⑤
		READY	⑥
		01-040 DEALER STOCK	⑦
		BEGIN	⑧
		+0000000283	⑨
		TP11 DT ERR LI - HDR-63304	⑩
		⋮	
		TP11 EOF 00002	⑪
		FINISH	⑫
		+0000000293	⑬
	↓	PROG 01041 DESIRED	
	↓	FOUND	

h) Flowchart



(以上)

本 PDF ファイルは 1964 年発行の「第 5 回プログラミング・シンポジウム報告集」をスキャンし、項目ごとに整理して、情報処理学会電子図書館「情報学広場」に掲載するものです。

この出版物は情報処理学会への著作権譲渡がなされていませんが、情報処理学会公式 Web サイトに、下記「過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について」を掲載し、権利者の検索をおこないました。そのうえで同意をいただいたもの、お申し出のなかったものを掲載しています。

https://www.ipsj.or.jp/topics/Past_reports.html

過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について

情報処理学会発行の出版物著作権は平成 12 年から情報処理学会著作権規程に従い、学会に帰属することになっています。

プログラミング・シンポジウムの報告集は、情報処理学会と設立の事情が異なるため、この改訂がシンポジウム内部で徹底しておらず、情報処理学会の他の出版物が情報学広場 (=情報処理学会電子図書館) で公開されているにも拘らず、古い報告集には公開されていないものが少からずありました。

プログラミング・シンポジウムは昭和 59 年に情報処理学会の一部門になりましたが、それ以前の報告集も含め、この度学会の他の出版物と同様の扱いにしたいと考えます。過去のすべての報告集の論文について、著作権者(論文を執筆された故人の相続人)を探し出して利用許諾に関する同意を頂くことは困難ですので、一定期間の権利者搜索の努力をしたうえで、著作権者が見つからない場合も論文を情報学広場に掲載させていただきたいと思えます。その後、著作権者が発見され、情報学広場への掲載の継続に同意が得られなかった場合には、当該論文については、掲載を停止致します。

この措置にご意見のある方は、プログラミング・シンポジウムの辻尚史運営委員長 (tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp) までお申し出ください。

加えて、著作権者について情報をお持ちの方は事務局まで情報をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

期間：2020 年 12 月 18 日～2021 年 3 月 19 日

掲載日：2020 年 12 月 18 日

プログラミング・シンポジウム委員会

情報処理学会著作権規程

<https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/copyright.html>